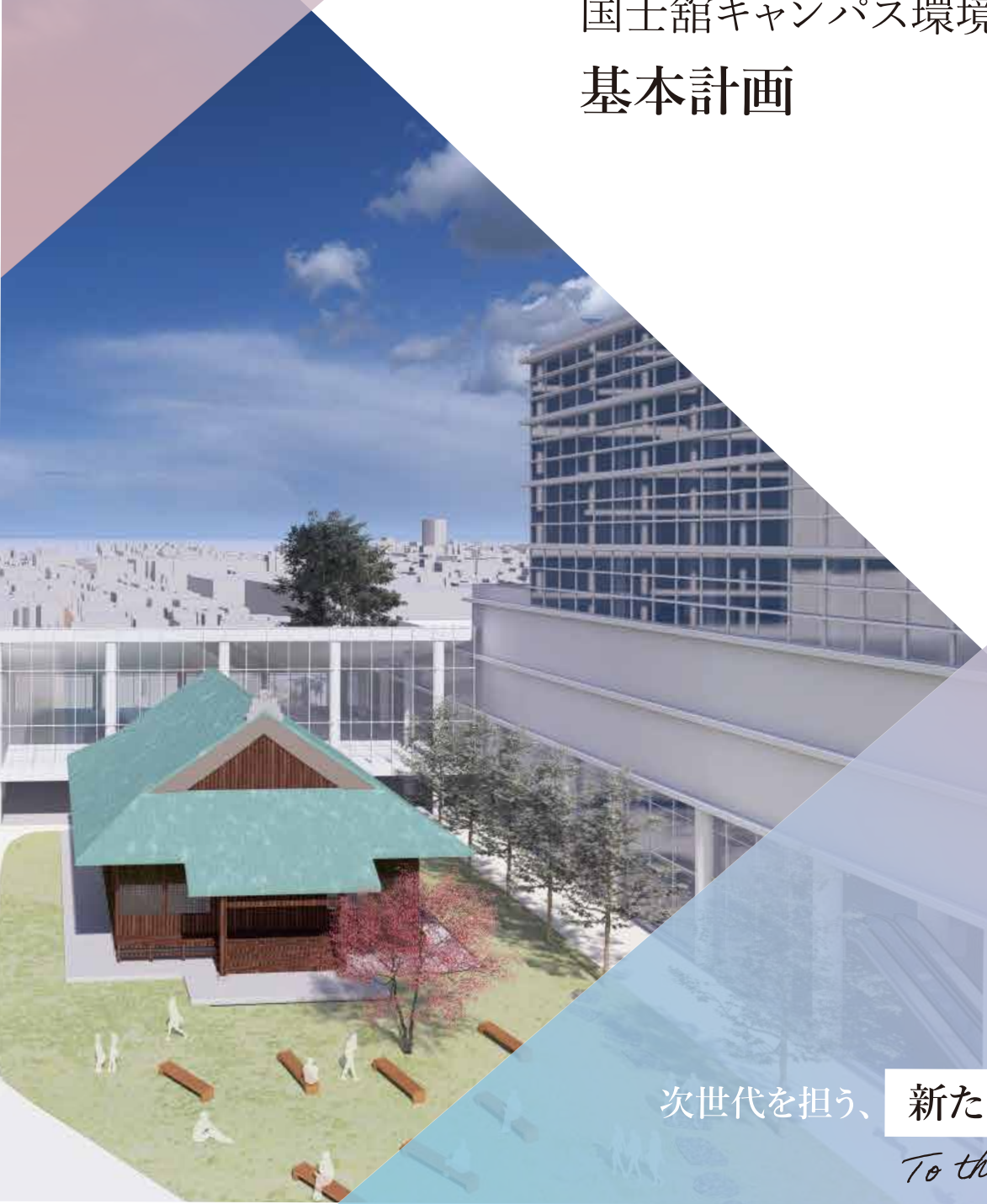
国士舘キャンパス環境整備事業

基本計画



次世代を担う、新たな国士舘へ

To the new Kokushikan

国士舘大学 世田谷キャンパスの再整備を計画しています！

KX 国士舘トランスフォーメーション

― 次世代のリーディングキャンパス ―

近年の急速な社会変革に伴い、トランスフォーメーション（変革）や交差・横断など掛け合わせる意味を持つ“X”を用いて、DX（Digital Transformation）などの変革が推進されています。

国士舘キャンパス環境整備事業では、「国士舘の教育理念×先駆的なキャンパス環境の整備＝“KX”＝国士舘トランスフォーメーション」をコンセプトに、地域社会に貢献する心身ともに健やかな人材“国士”を輩出するための次世代をリードする教育環境を整備します。

国士舘キャンパス環境整備事業の趣旨と目的

本学は、『学校法人国士舘 第２次中長期事業計画』に基づき、令和４年 10 月に「国士舘キャンパス環境整備計画推進プロジェクト会議」及び「国士舘キャンパス環境整備計画推進室」を設置し、築 50 年を経過した世田谷キャンパス校舎の建て替えを中心とした再整備の検討を進めています。令和６年２月に基本構想を策定し、令和７年１月に基本計画を取りまとめました。

本事業では、教育研究活動を支える最適な環境を整備するとともに、学生や地域社会にとって快適で健康的な学修環境を創出します。さらに、環境への配慮や地域社会との連携を図り、持続可能で実践的な学びの場を提供します。

また、世田谷区の歴史的環境や景観、防災機能を考慮し、地域計画と調和した再整備を行います。歴史的建造物の保全と国士舘の理念を継承しつつ、次世代のニーズに応える施設を構築し、過去・現在・未来をつなぐ一貫した理念を具現化します。

本学の伝統を継承しつつ、次世代をリードする知の拠点を創出するため、着工・完成に向けて更なる検討を進めてまいります。

事業概要

計画予定地	世田谷キャンパス（東京都世田谷区）
敷地面積	約57,000㎡
整備予定建物	5号館、6号館、7号館、8号館、10号館、 地域交流文化センター棟
延床面積	35,209㎡（整備予定建物の合計）
学部	政経、理工、法、文、経営
研究科	政治学、経済学、経営学、法学、 総合知的財産法学、工学、人文科学
学生数	8,886人（2025年5月現在、世田谷キャンパス）
事業期間	2025～2035年度（予定）

大学を取り巻く状況

本学が目指す人材育成

建学の精神
「国を思い、世のため、人のために
尽くせる人材『 国士 』の養成」

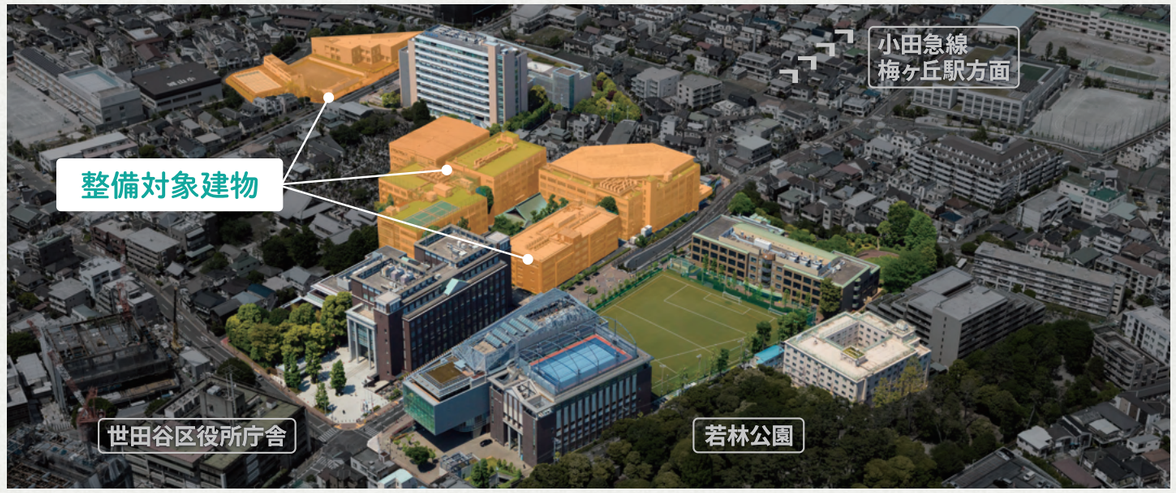
・社会を支え、次世代をリードする人材輩出のための経営基盤の保持

学生の環境

・少子化による 18 歳人口の激減・大学選びの激化
・大学に求める価値観の変化
・高等教育のグローバル化
・オンライン授業や AI 技術等の普及に伴う ICT・デジタル教育の必要
・社会人の学び直しの機会の充実

社会の動向

・頻発する大規模災害への対応
・地域・社会との緊密な関係づくりの重要性の増大
・持続可能な開発に向けた環境配慮型社会の推進
・様々な背景を持った人々を受け入れる多様性への対応
・コロナ禍を経た健康に対する関心の増加



キャンパス整備方針

01 学生ファーストキャンパス

1. 学生の居場所(コモンズ)の積極的創造
2. 主体的・多様な学修環境づくり
3. キャンパスアメニティ(快適性・利便性)の向上

【自習室(例)】
- 視認性の高い自習室
- WEB予約システムの活用
- だれでも使いやすい一枚机エリア

共用部(階段)のイメージ

自習室のイメージ

02 スマートキャンパス

1. 様々な学びを支える先端ICT教育環境の導入
2. 充実したキャンパスライフを支えるICT活用
3. 地域を守り、共生する防犯・防災DX

【先進的技術を取り入れた教室(例)】
- アクティブラーニングが行える講義室
- 遠隔地からの講義参加
- タッチテーブルの導入
- 各テーブルの動きを把握できる双方向の講義

先進的技術を取り入れた教室のイメージ

オンライン環境のイメージ

03 防災キャンパス

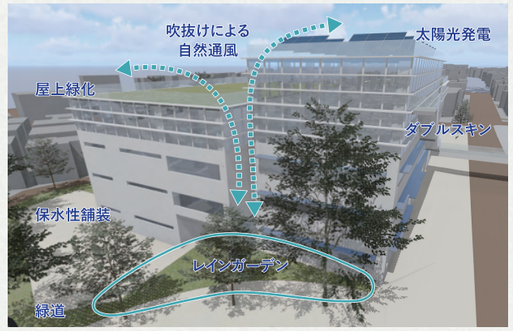
1. 地域の防災拠点機能の確保
2. 災害に強い構造と、災害時に自立できる機能の確保
3. フェーズフリーの施設利用

防災拠点機能
- 帰宅困難学生に対応できるホール整備
- 地域住民の避難も想定した大講堂前広場 など

災害に強い建物・設備
- 構造体・非構造体の耐震化、免震、耐火設計
- 非常用エネルギー、蓄電設備、自家発電設備の導入 など

04 サステナブルキャンパス

1. 省エネ対策等によるキャンパスの脱炭素化の推進
2. 緑豊かな環境整備による良好な学修環境の創出
3. 資源循環による環境負荷の低減



梅棟のZEB化のイメージ

05 ヘルシーキャンパス

1. スポーツの機会が身近にあるキャンパスづくり
2. 憩いの空間の創造
3. 健康的な食事の提供

多目的フロア
- 体育実習や学部の授業での利用
- クラブ活動での利用 など

「食」による健康増進
- 野菜をとれるメニューの提供
- 学生アイデアを活用したメニュー提供 など

06 地域連携・社会協創キャンパス

1. 産官学連携を促進する環境づくり
2. 社会連携・地域交流を促進する仕掛けの導入
3. 国士舘の広報・インフォメーション機能の導入

【プロジェクトエリア(例)】
- 学生同士・学生と外部の方とが自由に議論・作業できるエリア、ラウンジスペース
- 壁面ホワイトボード等による自由度の高い会議
- プロジェクトが繋がっていく学生活動の場
- 防音の学修室

プロジェクトエリアのイメージ

07 インクルーシブデザインキャンパス

1. 多様な人材を受け入れられる環境づくり
2. グローバルな視点による環境の整備
3. 共創的な対話に基づく、息の長いキャンパスづくり

バリアフリー・ユニバーサルデザイン
- 学生サポーター室、障がい学生支援室の整備
- 学修支援室の整備 など

愛着醸成
- 学生や当事者等が参加するワークショップ

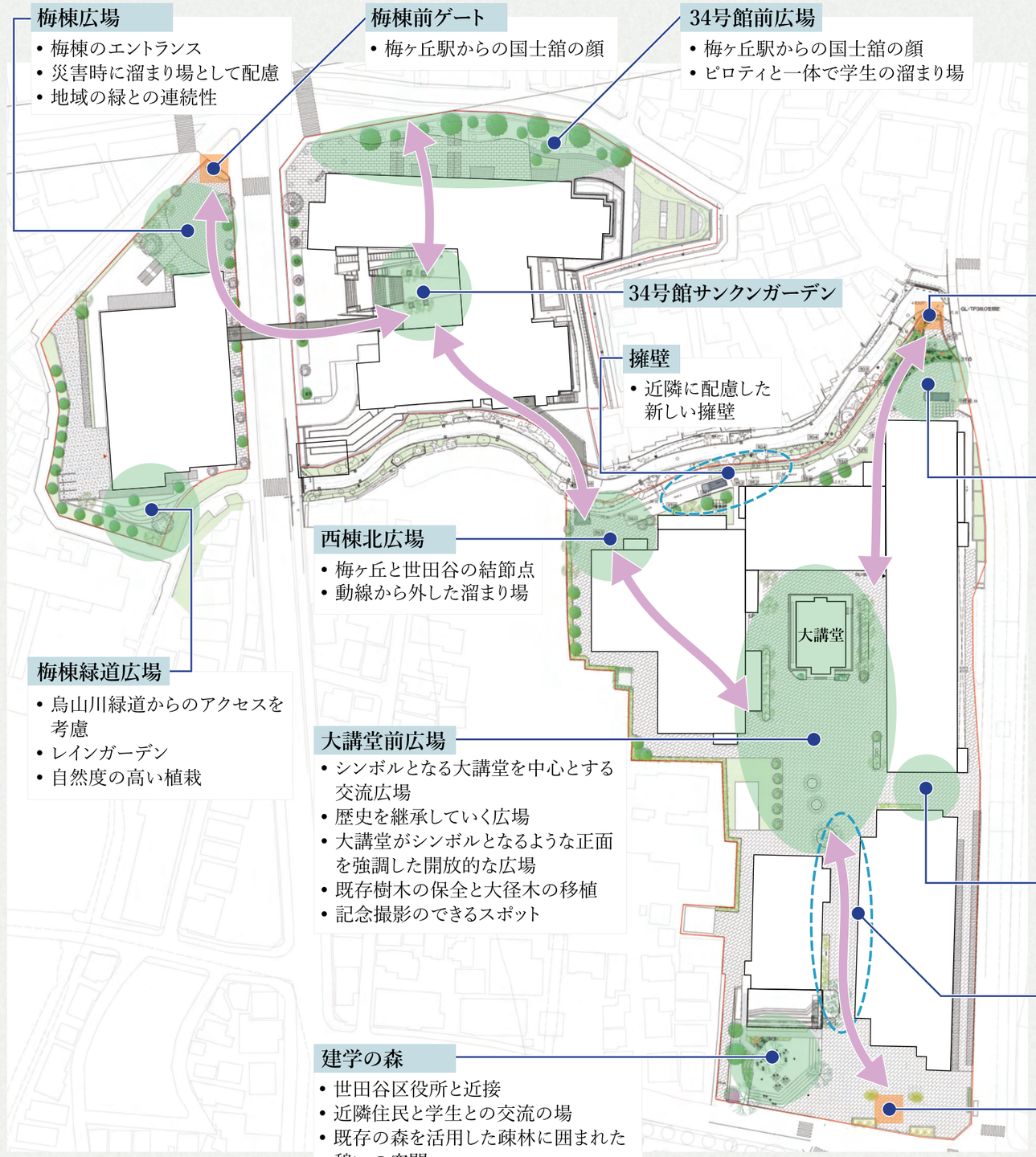
※各イメージ図は、現時点の計画に基づくイメージであり、整備内容を決定するものではありません。
※新棟の名称は、すべて仮称です。

キャンパス全体計画

梅棟イメージ

大講堂前広場イメージ（正面から望む）

建学の森の整備イメージ



梅棟広場
- 梅棟のエントランス
- 災害時に溜まり場として配慮
- 地域の緑との連続性

梅棟前ゲート
- 梅ヶ丘駅からの国士舘の顔

34号館前広場
- 梅ヶ丘駅からの国士舘の顔
- ピロティと一体で学生の溜まり場

34号館サンクンガーデン

擁壁
- 近隣に配慮した新しい擁壁

西棟北広場
- 梅ヶ丘と世田谷の結節点
- 動線から外した溜まり場

梅棟緑道広場
- 烏山川緑道からのアクセスを考慮
- レインガーデン
- 自然度の高い植栽

大講堂前広場
- シンボルとなる大講堂を中心とする交流広場
- 歴史を継承していく広場
- 大講堂がシンボルとなるような正面を強調した開放的な広場
- 既存樹木の保全と大径木の移植
- 記念撮影のできるスポット

建学の森
- 世田谷区役所と近接
- 近隣住民と学生との交流の場
- 既存の森を活用した疎林に囲まれた憩いの空間
- 既存の石や灯籠を活用した広場

北門エントランスのイメージ

北門エントランス
- 梅ヶ丘駅からの新たな顔
- 地域の散歩動線として四季を感じるナチュラリスティックガーデン
- 明るいイメージの低木・草花植栽による象徴的なゲート

東棟北広場
- 理工学部の実験ヤード
- 搬入用車両の出入口

大講堂前広場イメージ（東棟ピロティから望む）

東棟南広場
- グラウンドへのアクセス
- グラウンド側からアイストップとなる大径木

プロムナード
- 校舎に挟まれた象徴的な通路空間
- アイストップとなる大講堂

正門（南口）エントランス
- 国士舘大学の顔
- 玄関となる象徴的な空間

※各イメージ図は、現時点の計画に基づくイメージであり、整備内容を決定するものではありません。
※新棟の名称は、すべて仮称です。

機能毎の配置方針

研究機能

- 研究機能は学部ごとに集約し、4階以上に設ける

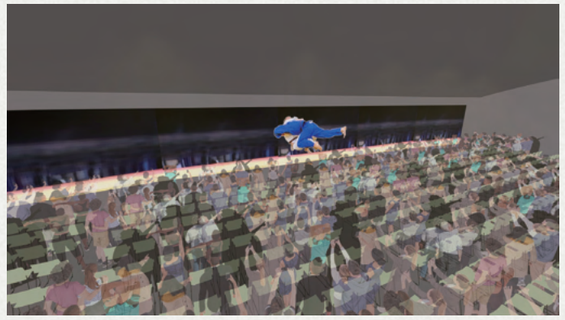
教室機能

- 学生の利便性向上のため、2～3階に教室を集約して配置
- 小・中教室は可動型の什器を採用し、アクティブラーニングがしやすい環境を整備
- 大人数の講義にも対応可能な大教室を、現状より拡充して整備

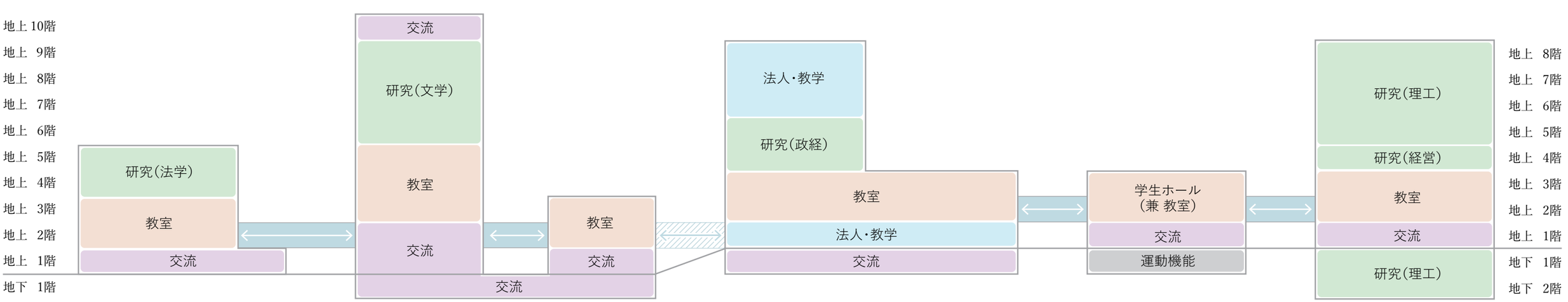
交流・厚生機能

- 新たな魅力として、多くの学生が利用したいと感じる学生食堂やカフェ、コンビニ等
- 学生及び地域住民・外部の方が利用しやすいカフェ等の憩いの機能
- 学生主体の活動を促進する学生ホールを北棟に整備

学生食堂のイメージ



パブリックビューイングのイメージ（学生ホール）



梅棟と34号館の校舎間を
つなぐ上空通路のイメージ

共用部（廊下）のイメージ

法人・教学機能

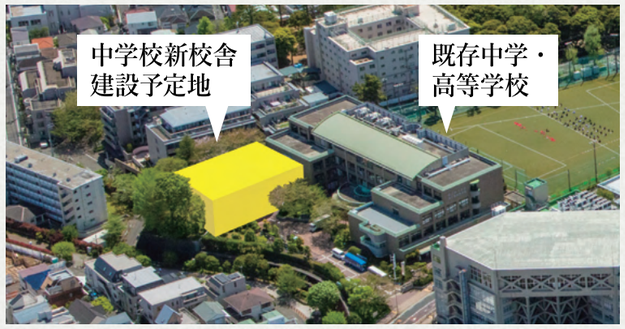
- 理事長室や学長室、学部長室を近接配置することで、法人、教学の連携強化を図る
- 西棟に事務機能を集約
- 学生・教職員の利便性向上に向け、学生支援機能を西棟に統合配置
- 会議室を現況よりも拡充

運動機能

- 新たな運動機能として、北棟地下1階に多目的フロアを整備

※各イメージ図は、現時点の計画に基づくイメージであり、整備内容を決定するものではありません。
※新棟の名称は、すべて仮称です。

中学校新校舎建設計画



既存の中学・高等学校校舎（東京都世田谷区）から中学校の教室を独立させ、既存校舎に隣接して新たな中学校校舎を建設することで、中学校教育を確立し、教育環境のさらなる向上を目指します。

加えて、新校舎と既存校舎の地上レベルを統一し、段差を解消することで、バリアフリー化に対応します。新校舎には、1学年当たり3教室を整備し、総面積約1,500㎡の校舎を建設する計画です。

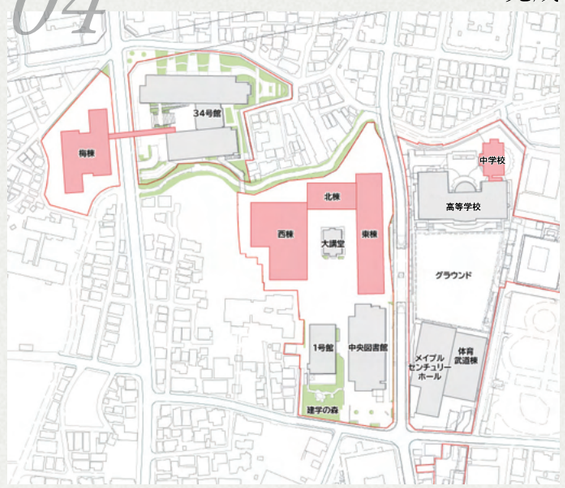
建物配置・建て替え手順

01 フェーズ1　2025～2027年度

02 フェーズ2　2029～2031年度

03 フェーズ3　2032～2035年度

04 完成



建築規模

現状

キャンパス全体：約 109,000 ㎡

（単位：㎡）

5号館	6号館	7号館	8号館	10号館	地域交流文化センター棟
4,306	4,644	5,778	8,200	11,111	1,170
合計　35,209					

計画

キャンパス全体：約 114,500 ㎡

（単位：㎡）

梅棟	西棟	北棟	東棟	中学校
約9,400	約12,000	約2,800	約15,000	約1,500
合計　約40,500				

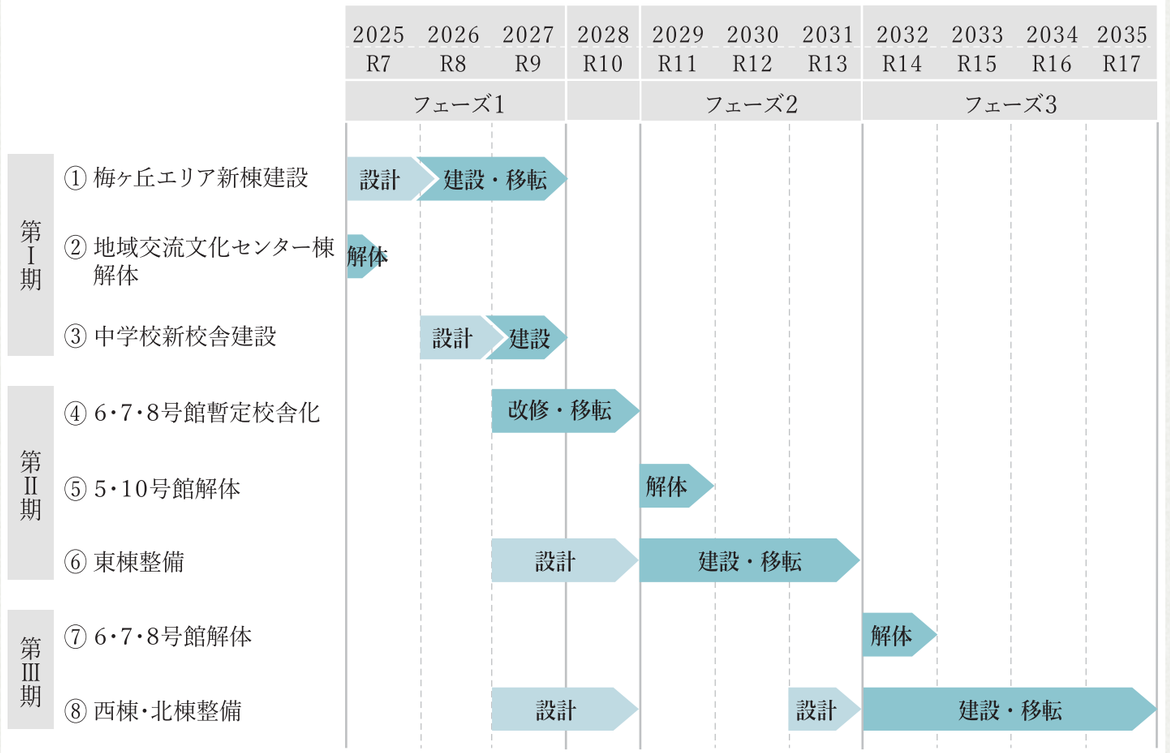
事業スケジュール

世田谷キャンパスで修学する学生に対する授業は工事期間中も同キャンパスで行うことを前提とし、在学期間を仮設校舎だけで過ごすことがないように配慮するなど、学生の負担を最小限に抑えて整備します。

学園の運営を継続しながら建て替えを進めるため、3つのフェーズに分けて段階的に整備していきます。

地域交流文化センター用地等を活用して新棟（梅棟）を新たに整備し、全体として現状と同程度の床面積を確保しながら、建て詰まりを解消し、ゆとりあるキャンパスを整備します。

（年度）



※本スケジュールは現時点での目標であり、今後の社会情勢等に応じて変更となる場合があります。
※新棟の名称は、すべて仮称です。

人と社会を支える力

学校法人 国士舘

Kokushikan

国士舘キャンパス環境整備事業　基本計画　　令和８年４月発行（第２版）

発行　学校法人国士舘
〒154-8515　東京都世田谷区世田谷 4-28-1
https://www.kokushikan.ac.jp/campus_renewal/

編集　国士舘キャンパス環境整備計画推進室
03-5481-3119
campusseibi@kokushikan.ac.jp